

Antiretroviral Pregnancyレジストリは 抗HIV薬による奇形の発生率の低さを示す

第1三半期における曝露による先天異常発生率（2021年1月31日までのデータ）

	薬剤	先天異常児/生見出生	発生率、% (95%CI)
クラス	すべての抗HIV薬曝露	310/10950	2.8 (2.5-3.2)
NRTI	アバカビル	43/1368	3.1 (2.2-4.2)
	エムトリシタビン	104/3952	2.6 (2.2-3.2)
	ラミブジン	169/5433	3.1 (2.7-3.6)
	テノホビルアラフェナミドフマル酸塩	22/526	4.2 (2.6-6.3)
	テノホビルジソプロキシルフマル酸塩	108/4483	2.4 (2.0-2.9)
	ジドブジン	136/4225	3.2 (2.7-3.8)
NNRTI	エファビレンツ	28/1166	2.4 (1.6-3.5)
	ネビラピン	35/1171	3.0 (2.1-4.1)
	リルピビリン	8/557	1.4 (0.6-2.8)
PI	アタザナビル	33/1447	2.3 (1.6-3.2)
	ダルナビル	22/643	3.7 (2.4-5.5)
	Indinavir	7/289	2.4 (1.0-4.9)
	ロピナビル	30/1439	2.1 (1.4-3.0)
INSTI	ラルテグラビル	15/486	3.1 (1.7-5.0)
	ドルテグラビル	19/576	3.3 (2.0-5.1)
	エルビテグラビル	11/371	3.0 (1.5-5.2)